

変えよう！ 日本と世界

9条改憲阻止！ 東アジアの平和を妨害し、
政治を私物化する安倍政権を倒そう！

プログラム

司会 藤井悦子さん/ 白坂有子さん

▼13:33

主催者挨拶と集会基調 仲尾 宏 さん (集会実行委・代表世話人)

* 配布の「集会基調」を参照してください。

連帯挨拶 関西から9条改憲阻止、反安倍のうねりを！

中北龍太郎 さん (戦争あかん！基地いらん！関西のつどい実行委員会)

福山和人 さん (安倍改憲NO！アクション京都)

▼13:55

政局を語る 服部良一 さん (元衆議院議員)

▼14:05

講演トーク アベノミクスの失敗と貧困

雨宮処凛 さん (随筆家・『週刊金曜日』編集委員) 聞き手—白坂有子さん

▼14:45

公演 (歌) 差別・排外主義を許すな—戦争法いらん・原発あかん・基地いらん

趙 博 さん (浪速の唄う巨人) & よしだよしこ さん (シンガーソングライター)

(★ キャンパ アピール 司会から)

▼15:18

緊急アピール 権力の闘う労働組合つぶしと対峙し、働く仲間の先頭に立つ

西山直洋 さん (連帯ユニオン 関西地区生コン支部)

▼15:23

講演と報告・歌 沖縄・辺野古への米軍新基地建設を許すな！

講演—稲嶺 進 さん (沖縄・前名護市長、「オール沖縄」共同代表)

報告—安次富 宏 さん (沖縄・名護へり基地反対協共同代表)

▼15:58

沖縄・平和を歌う—川口まゆみ さん (京都のシンガーソングライター)

▼16:10

まとめと行動提起 寺田道男 さん (集会実行委・事務局長)

▼16:15

インターナショナル (歌詞・裏面)

★会場内のゴミ分別に御協力を！★

紙類—缶・ペット類—生ごみ の3分別

▼16:40 デモ 出発 →四条通→河原町四條→京都市役所前 解散

「第12回 反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都」の開催にあたって

今年に入って日本と東アジアの情勢は大きな変動の時期に入りました。朝鮮半島をめぐる情勢は、南北の首脳会談、それに触発された米朝首脳会談の開始が、大きな変動をこの地にもたらしています。しかし日本の安倍政権はこれらの動きに対して「蚊帳の外」であるばかりか、「北朝鮮の脅威」を依然として煽り、朝鮮半島の「南北和解」による平和と統一の動きに敵対しています。

今年の10月21日の国際反戦デーは、政治の私物化による政権延命と戦争する国づくりに奔走する「アベ政治」を一刻も早く打倒し、市民の側に政治をとり戻す機会です。沖縄情勢や労働者・若者をとりまく危機的な情勢を見据え、明日への活力を培うために、ともに闘うために、今日の京都・円山音楽堂での集会を一つの糧にし、まだまだ続く長い闘いを、ともに歩んでいきたいと思えます。

(第12回の集会基調は別紙でプログラムに挟んでいます。一読を！)

本集会のスピーカー&パフォーマー プロフィール [出演順]

★講演トーク アベノミクスの失敗と貧困

兩宮処凛さん 1975年生まれ。作家・活動家。『週刊金曜日』編集委員・反貧困ネットワーク副代表。2000年、自伝的エッセイ『生き地獄天国』(太田出版/ちくま文庫)でデビュー。2006年から格差・貧困問題に取り組む、取材・執筆・運動中。著書に『女子と貧困』(かもがわ出版)、『一億総貧困時代』(集英社インターナショナル)など、新書に『非正規・単身・アラフォー女性「失われた世代」の絶望と希望』(光文社新書)

★公演 反戦・平和を唄う

趙博さん 大阪市西成区に生まれ。「パギヤン」で親しまれる浪花の唄う巨人、歌劇派芸人、役者、作家。CD『百年目のヤクソク』『怒!阿呆陀羅経』『ワテらは陽気な非国民』、DVD『コンサート・百年を歌う』、著作『僕は在日閩西人』『パギヤンの大阪案内』などを発表。【新宿梁山泊】の作家兼役者で『百年、風の仲間たち』『丹下左膳/百万両の夢枕』の脚本を担当、『二都物語』『腰巻きおぼろ/妖鯨編』などに出演。また、一人芝居『歌うキネマ/声体文藝館』シリーズも各地で公演、演目は『ホテル』『砂の器』『飢餓海峡』『泥の河』『マルコムX』など多数。闘争と表現、伝統と現代…状況で葛藤し合うテーマとシェーマを追求し「詐偽国ニッポン」に鉄槌を下す! その為、あと30年は生き抜きたいと思っている歌劇派芸人。

よしだよしこさん シンガーソングライター、元フォークグループ「ピピ&コット」メンバー、吉田拓郎、泉谷茂、古井戸、海援隊などのアーティストとともに活動。その後25年の空白を経て、2003年からシンガーソングライターとしてライブ活動を始める。アメリカで1950年代に起きた公民権運動のさなかにバスボイコット運動のきっかけをつくった女性ローザ・パークスについて唄った『She said NO!』、2011年の東日本大震災を体験した直後につくった『忘れないということ』、詩人・石川逸子氏の詩に作曲した『地球に似た惑星にいるあなたに』など作品多数。

★講演と報告・歌 沖縄・辺野古への米軍新基地建設を許すな!

稲嶺進さん 1945年沖縄県名護市生まれ。1972年名護市役所に就職し、2010年の名護市長選に「普天間飛行場県内移設反対」を掲げて当選し、名護市長を2期務めるが、今年2018年、3期をめざしたが果たせなかった。「オール沖縄」の共同代表。

安次富浩さん 1946年沖縄県金武町生まれ。1982年、一坪反戦地主会設立に参加。1998年「ヘリ基地建設反対協議会」共同代表となり、辺野古新基地建設の反対運動に取り組む。2009年「辺野古・違法アセス訴訟」原告団長。沖縄意見広告運動・全国世話人。

川口眞由美さん 障害者通所事業所の仕事をしながら三人の子どもさんを育てるシングルマザーで、京都の反戦歌手。「命どう宝」命こそ宝をテーマに全国に闘いの仲間を増やす活動をしている。とくに沖縄・辺野古ゲート前闘争では、当初から月1回のペースで座り込み、「粘り強く闘いを拓ける」と語り、その力強い歌と踊りは、現場に座り込む人たちから大きな共感を受けている。DVD『レジスタンスなう』などをリリース。2016年に『想い続ける』、2018年に『人のチカラ』のアルバムを発売。

第 12 回 反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都 集会基調

(1)

2012 年に民主党（当時）の失政に乗じて登場した安倍第二次政権は、翌 13 年に秘密保護法→15 年に安保関連法→17 年に共謀罪→18 年に働き方改革関連法と、「戦争のできる国」、「監視社会」、「分断・格差社会」を目ざす反動法案を次つぎと強行してきた。また、原発の再稼働を世論の圧倒的反対を無視して行い、辺野古米軍新基地建設を沖縄の民意を無視して強行し、防衛予算を拡大して戦争法の内実を実行してきた。さらに北東アジアの情勢の変化にトランプ政権内の戦争屋と組んで背を向けている。

また、アベノミクスは資産のある者を増々富ませ、非正規労働者を増々拡大し、貧富の格差を拡大してきた。さらに内閣官房—内閣府を強化して政治の私物化を行い、モリ・カケ問題にも強弁と問題のすり替えを繰り返して、居直り続けた。また、報道への干渉と管制を行ってマスコミを死に追いやりつつある。まさに、自民党は安倍の私兵と化し日本会議さながらの様相を呈している。3 選を果たした安倍は「戦後政治の総決算」としての憲法改悪を公言してはばからない。

私たちは、このような最悪な「亡民（タミ）」の安倍自民党政権を一刻も早く打倒しなければならない。

(2)

このような安倍自民党に見られる右翼化の流れは、日本だけではない。トランプのアメリカや欧州での右翼排外主義政党の抬頭など世界的現象である。グローバル化を推進してきたアメリカがいまや「アメリカファースト」を掲げてナショナリズムを煽り、欧州右翼が移民排斥を掲げている。アメリカ一強の時代は終わり多極化し競争の時代に入っている。これがナショナリズム跋扈の第一の原因である。同時に、このナショナリズムはグローバル化と新自由主義のもとで進行した貧富の格差の拡大と深く結びついている。格差を利用して例えば、労働者—移民労働者、正規—非正規労働者を相戦わせて分断し、さらにそれを外に向けて、敵対国をつくりあげ（トランプの対中国のように）、ナショナリズムを煽り立て、自己の支配力に利用するのは為政者の常套手段である。

私たちは、世界の人のびとと共にこのようなナショナリズム＝自国ファーストと闘わねばならない。特に日本では、キャンドル革命以降の朝鮮半島—北東アジアの情勢の変化に注目し、キャンドル革命を成し遂げた韓国の人びとをはじめとするアジアの人びとと連帯して、情勢に背を向ける安倍政権やアメリカの産軍複合体制の戦争屋と闘わねばならない。

(3)

グローバリズムのもたらす惨禍とナショナリズムの抬頭に対する闘いは、世界同時に新しい運動の波として生み出されている。2011 年が画期の年であった。“アラブの春”にはじまりウォール街や世界各国でのオキュパイ（占拠）、そして日本での 3・11 以降の反原発→安保法反対運動もその一環である。これらの運動は、アメリカ—イスラエル、ワシントン、ブリュセル、永田町による政治の独占、従って政治からの疎外、あるいはウォール街や巨大多国籍企業による経済の寡占と途方もない格差の拡大、従って経済的・社会的疎外に対する抗議であり、総じて「自己決定権」の要求を内包するものである。かつての成長期のように単に賃上げや福祉＝再配分、即ちパイの分け前の要求であるだけでなく、それらを阻害（疎外）している“仕組み”＝体制をも俎上にあげようとするところに運動の新しさと深さがある。

そして、これらの運動を背景として新たな「政治勢力」が誕生した。スペインのポデモス、独仏の左翼党、イギリス労働党のコービン、アメリカでさえ民主“社会主義”を公言するサンダース、韓国の参与連帯や進歩連帯＝運動圏などである。これらは従来の中道左派（欧州社民、アメリカ民主、日本民主など）では、2011 年以降の新たな運動の深さに対応できないことを示している。

だが、この点では日本の運動は決定的に立ち遅れている。私たちは諸戦線の運動を闘うとともに新たな政治勢力形成のためにも全力を尽くさねばならない。

(4)

沖縄での玉城知事勝利と時を同じくして安倍第4次改造内閣がスタートした。責任を取らない麻生を副総理に置き、党の中枢に汚職容疑の甘利を復活させると共に、憲法責任者に下村、総務会長に加藤と日本会議系の右翼を配置する「改憲布陣」である。安倍政権の今後の3年間は、現在から来年7月の参院選挙まで<4月の統一地方選、天皇の代替わり、参院選挙>、来年7月から20年夏のオリンピックまで<19年10月消費税UPと即位の礼・大嘗祭>、その後の1年となるが、改憲を参院選との同時国民投票で強行するのか、参院選（衆院同時選も）の勝利を前提としてオリンピックまでに行うのか、それともその後のオリンピックでの国威高揚を受けてのいわゆる「花道改憲」なのか、現時点では予測出来ない。いずれにしても、戦争をさせない1000人委員会や安倍改憲NO！全国市民アクション、さらには「総がかり行動」などを通して安倍の改憲策動を葬らねばならない。

同時に、北東アジアの緊張緩和に背を向け、安保法の実質化（戦争のできる国）をはかるアメリカとの一体的軍事力強化―辺野古米軍新基地建設の強行、南西諸島への自衛隊配備強化、オスプレイの全国配備、アメリカからの兵器購入増大（自動車関税UP無しの見返りを含めた）などの防衛費の拡大など―に対して沖縄の人びとと連帯し、さらに全国的な反基地闘争の新たなうねりを形成して立ち向かわねばならない。同時に、その過程で韓国をはじめとするアジアの人びととの連帯を深めねばならない。

先の沖縄知事選での玉城氏の勝利は、安倍政権の出鼻をくじき、全国の人びとに勇気を与える偉大な勝利だった。また、そこでの「オール沖縄」の連帯の在り方は本土での運動や共同戦線の在り方に大きな教訓となるものである。さらに安倍政権は、天皇代替わりとオリンピックを最大限に“政治利用”してナショナリズムを煽り建てようとしている。また、「日本会議」を軸としたネットウヨクや、杉田某の差別発言や、「新潮45」問題にみられる右派は、差別排外と分断、歴史修正主義の言論をまき散らしている。これに対しても闘わねばならない。

(5)

安倍政権は、圧倒的な再稼働反対の世論を無視して原発の再稼働を強行してきた。現在いわば第2周期に入り、東海第二をはじめ40年越えの老朽原発再稼働、東電の柏崎刈羽、島根3号や大間の新稼働さえも企んでいる。しかし、危険であるだけではなく、経済的合理性もないことは東芝の破綻や日立のイギリス原発輸出の困難が示している。「全国阻止ネット」を軸とした現地闘争と広範な全国運動によって再稼働を葬らねばならない。同時に「原発のないまちづくり」のビジョンを掲げて展開しなければならない。

(6)

安倍政権はこの間、人づくり革命、総活躍社会等々と美辞麗句を並べてきたが、そこにあるのは「国が主」であり「人が従」であるという転倒した企業と国に奉仕する人づくりである。このような転倒したイデオロギーで先の国会での「働き方改革法」を強行通過させた。今や非正規雇用は40%に達している。アベノミクスは円安、ゼロ金利（従って国債の利払いがほとんどない）というリーマンショック以降の特殊な世界経済の状況に恵まれた以外は、労働市場の規制緩和によって賃金を抑え労働分配率を抑えて企業の利潤と内部留保を高めただけである。3本の矢でいう成長戦略は先の国会でのカジノ法や加計問題で明るみになった「国家戦略特区」やインフラ輸出（原発輸出、武器輸出の緩和）という矮小なものであり、ことごとく失敗作である。この間、日本のGDPは500兆円のままである。にもかかわらず企業の利潤が最高益を更新するのは、労働者（とりわけ非正規）からの搾取強化以外の何ものでもない。このような大企業と安倍政権の政策に抗し、また「産業報国会」的な一部の労働組合に抗してユニオンらの闘う労働組合と連帯して闘わねばならない。

(7)

私たちは、最後に上記したような各戦線、運動をつなぐ新たな政治勢力（韓国キャンドル革命に学んだ重層的連帯や先に触れた欧米左派のように旧来の中道左派＝社民を超えた社会ビジョンを提起できる）を形成するためにも奮闘しなければならない。運動の先頭に立つと同時に、新たな政治勢力形成の一環として、来19年の統一地方選挙―参院選で、野党共闘を形成するだけではなく、運動圏を代表する闘う候補を擁立して闘うことも重要だ。改憲を目論み戦争のできる国への道を歩み、差別と分断を拡大する安倍政権の打倒に向けて、共に闘おう！

2018年10月21日（国際反戦デー）

10・21 第12回 反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都

賛同人と賛同団体/賛同店

賛同人 あ/ 青木 健、浅野献一、芦名定道、飛鳥井佳子、天野 博、新居万太、荒井康裕、荒金洋子、荒木淳子、五十嵐守、伊藤公雄、稲垣紀代、稲村 守、井上和彦、井村哲郎、岩佐英夫、岩田吾郎、岩津雅典、岩本乾治、岩本昌美、上谷順子、上田誉志美、上原敦男、牛尾国彦、宇城順子、内富 一、江口慶明、仰木 明、岡田雅宏、大井哲郎、大川傳四郎、大川なを、大菅新、太田俊夫、大野ひろ子、大原和子、小川久美子、小川成子、落合祥堯、翁長晴永、翁長洋子、折田泰弘 か/ 海藤壽夫、垣沼陽輔、片山昌伸、加藤幹雄、笠村正人、笠村容子、金丸 博、川上 信、川島繁夫、川嶋澄夫、河野正子、河村栄三、川村 望、岸園正俊、北川政幸、北岸達夫、木下俊子、工藤美彌子、久保 敬、黒石昌朗、鴻池 博、児玉利春、小西弘泰、小林圭二、駒井高之、糸山義隆、小山敏夫、近藤好澄、近藤弘子 さ/ 齊藤郁夫、齊藤純子、佐々木佳継、佐藤 大、実藤大作、実藤光子、三野英二、柴田朋三、柴田富士子、篠田美津代、嶋川まき子、清水達也、白井美喜子、白坂有子、白永昇次、徐 翠珍、徐 龍達、新開純也、杉 浩史、杉谷伸夫、須田 稔 た/ 高敏多恵子、高崎庄二、高瀬元通、高橋幸子、田川晴信、瀧川順朗、武市常雄、竹内 宙、竹内正三、竹内信照、竹田雅博、竹中暉雄、田代 学、田中 徹、田中美樹、田中良照、谷 直樹、谷口ひとみ、田村文子、知花昌一、千葉宣義、千葉洋志、趙 博、塚口幸子、塚本泰史、角替 豊、寺田道男、東条文規、銅銀正美、外川正明、富田英司、土肥輝夫 な/ 内藤 進、仲尾 宏、仲宗根朝寿、中川真帆、中川光子、中沢浩二、中寫哲演、中田益宏、中濱良二、中河由希夫、中村在男、仲村 実、中森 昭、永井美由紀、永岡浩一、永嶋靖久、長野博行、永谷ゆき子、鍋島浩一、難波希美子、西 明良、西村 修、西村広宣、西山直洋、蜷川泰司、沼田充廣、根津幸彦、根本 博、野口 修、野坂昭生、野村生代 は/ 朴 実、橋野高明、橋本 昭、橋本利昭、服部良一、馬場徳夫、妻 梨花、長谷川存古、長谷川 薫、林田古智、早野陽之介、樋口幸恵、菱木康夫、人見ジュン子、平手徳彦、広瀬正明、福井澂子、福山義和、藤井悦子、藤井興一、藤井 聡、藤河紀子、藤本孝一郎、藤原史朗、二葉晃文、船山幸子、古橋雅夫、星川洋史、堀 義明 ま/ 前田裕晤、前田陽子、前田正明、増野 徹、松尾哲郎、松浦逸郎、松川洋裕、松川敦子、松崎五郎、松下佳弘、松田耕典、松野尾かおる、松原康彦、松村美会子、馬淵亜雄、三上章道、水野直樹、三浦俊一、道端國枝、三橋秀子、南 勝次郎、南 俊二、南 斎子、南 守、宮崎康人、宮本博志、向井 均、三室 勇、三輪喜久治、村上隆之、村上ひとみ、茂木 康、物江克男、森本忠紀 ら/ 漁野 亨 /や 泰山義雄、柳田 健、弥永 修、山内小夜子、山内義広、山川よしやす、山岸康男、山下けいき、山田耕作、山田 謙、山田 肇、山地政司、山西喜子、山本 純、山本龍吉、山本将嗣、湯浅 進、湯山哲守、吉武仁貞、吉永剛志、吉本 昇、吉村文彦、米澤鐵志 わ/ 脇浜義明、和田孝雄、和田康彦 (敬称略)、

賛同団体/賛同店 I 女性会議/ アジア共同行動・京都/ アジア新時代研究会/ アジェンダ・プロジェクト京都/ 岩国・労働者反戦交流集会実行委員会/ おさかユニオンネットワーク/ 沖縄・辺野古への新基地建設に反対し普天間基地の撤去を求める京都行動/ 怒っているぞ！障害者切り捨て！ネットワーク関西/ オリーブの会/ オール関西 平和と共生/ 海曜社/ 風をおこす女の会/ 釜ヶ崎日雇労働組合/ 釜ヶ崎連帯委員会/ かりの会/ 関西共同行動/ 関西合同労組/ 関西合同労組大阪支部/ 関西大学校友連絡会/ 「共生・連帯」近畿 / キッチン・パーティー 京都大学社会科学研究会ピース・ナビ/ 京都「天皇制を問う」講座実行委員会/ 京都府教職員組合(きょうと教組)/ 9条改憲阻止共同行動/ ギャラリー・ヒルゲート/ ぐるーぷ ちゃんぷる/ グローバル・ジャスティス研究会/ 憲法を生かす京都の会/ 「国策と闘う」実行委員会/ コラボ玉造/ 在日コリアン・マイノリティ/ 三里塚決戦勝利関西実行委員会/ 自衛隊員の命と人権を守る京都の会/ 社民党伏見総支部 新社会党京都府本部/ 新世界通信/ 真宗大谷派・9条の会/ 消費者経済研究所/ 新空港反対東灘区住民の会/ 10・8 山崎博昭プロジェクト/ 人民新聞社/ ストップ・ザ・もんじゅ/ 戦争あかん！基地いらん！関西のつどい実行委員会/ 戦争をさせない左京1000人委員会/ 全日本建設運輸連帯労働組合近畿地方本部/ 使い捨て時代を考える会/ 東西本願寺を結ぶ非戦・平和共同行動実行委員会/ 日本キリスト教団京都教区「教会と社会」特設委員会/ No Base！沖縄とつながる京都の会/ 阪神社会運動情報資料センター/ 反戦老人クラブ・京都/ 反戦老人クラブ・滋賀/ 反「入管法」運動関西交流会/ バンドラディ/ 東大阪三里塚闘争に連帯する会/ ピース ムーヴィメント/ ふえみん婦人民主クラブ京都/ 平和憲法の会・京都/ 平和と民主主義をともにつくる会・大阪/ 米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会/ 緑と市民とネット運動・e 未来の会/ 緑の党グリーンジャパン京都府本部/ 元町憲法9条の会/ 労働者共闘/

(2018年10月15日現在 賛同人 243人、賛同団体/賛同店 66)

* なお、上記以外に公表を控えた多数の賛同人がおられることを記しておきます。そして、この集會に賛同され、河村宗治郎さん、府上征三さんら今年逝去された方々の冥福を心からお祈りします。(集會実行委員会一同)

インターナショナル

起て飢えたる者よ 今ぞ日は近し
醒めよわが同胞(はらから) 暁は来ぬ
暴虐の鎖断つ日 旗は血に燃えて
海を隔てつわれら 腕(かいな)結びく
いざ闘わんいざ 奮い立ていざ
ああインターナショナル われらがもの
いざ闘わんいざ 奮い立ていざ
ああインターナショナル われらがもの

聞けわれらが雄たけび 天地轟きて
屍(しかばね)越ゆるわが旗 行く手を守る
圧政の壁破りて 固きわが腕(かいな)
今ぞ高く掲げん わが勝利の旗
いざ闘わんいざ 奮い立ていざ
ああインターナショナル われらがもの
いざ闘わんいざ 奮い立ていざ
ああインターナショナル われらがもの

第12回 反戦・反貧困・反差別共同行動in京都 集会スローガン

- ① 朝鮮半島と東アジアの平和を！ 朝鮮戦争の休戦協定を平和協定に！
- ② 戦争法廃止！集団的自衛権の行使を許すな！秘密保護法・共謀罪廃止！
- ③ 憲法改悪反対！天皇の「元首化」を許すな！
主権在民、戦争放棄、基本的人権、労働3権を守ろう！
- ④ 辺野古への米軍新基地建設を許すな！
米軍普天間基地の即時撤去を！オスプレイの配備撤回！
日米地位協定の抜本改正を！南西諸島の自衛隊配備を許すな！
どこにも基地はいらない！
- ⑤ 京丹後の米軍Xバンドレーダー基地の撤去を！
- ⑥ すべての原発を廃炉に！核燃料サイクルをやめろ！原発輸出をやめろ！
政府・東電は事故の全責任を取れ！被曝労働を強制するな！
放射能汚染から子どもたちを守れ！
- ⑦ アジア民衆への加害の歴史をかくすな！
- ⑧ 格差社会を打ち破り、人らしく生きられる世界を！
- ⑨ あらゆる差別・排外主義に反対し、人権を確立せよ！
- ⑩ モリ・カケ疑惑を徹底的に追求しよう！
- ⑪ 消費税廃止！税金は金持ちと大企業から取れ！

主催 反戦・反貧困・反差別共同行動 in 京都 実行委員会

代表世話人 仲尾 宏
世話人 工藤美彌子、小林圭二、新開純也、高橋幸子、田川晴信、
瀧川順朗、千葉宣義、野坂昭生、米澤鐵志 (アイウエオ順)

連絡先 〒601-8003 京都市南区東九条西山王町7 NPO社会労働センターきずな 内

問合せ先 ☎ 090-5166-1251 (事務局長・寺田道男) FAX 075- 981- 4121

HP <http://www.kyotohansen.org>

賛同/カンパ振込先 郵便振替(番号) 00950-5-108500
加入者名 反戦・反貧困・反差別共同行動(きょうと)

★★★！！ 私たちの活動・運営費が不足しています。カンパをお願いします。